

B 75 女子高校生夏制服(ブラウス)の取扱い着用状態の違いが性能に及ぼす影響  
就実短大 森 信子

目的 高校入学時全員真白い夏ブラウスが、年月を重ねるにしたがい次第に変化し卒業学年を迎える頃にはブラウスの物理性能も異なり白度も黄味をおび制服としての価値も低下している。そこで着用取扱いの違いが性能に及ぼす影響を見出し、夏ブラウス取扱いに関する基礎資料を得る事を目的とした。

方法 女子高校生350名を対象に通学方法・所持数・着装方法と時間・洗濯乾燥方法・発汗の自覚をアンケートにより調査し、入学卒業生活環境を同じくする女子高校生3年間着用済みの夏ブラウスを試料として、衿、袖、胸、背中、裾の各部位より採取の上、通気度、厚さ、引裂、平面摩耗、吸水度、密度、変色についで試験した。

結果 密度は着用年数の多い制服(ブラウス)程、増加しておりこれは洗濯による素材の収縮のためと思われる。引裂強度は着用年数の多い制服(ブラウス)程、低下して3年着用で原布より5~10%低下、6年着用では30%もの低下が見られた。洗濯後の乾燥方法による性能劣化については、3種類中直射日光干しが最下位であった。夏制服として最も気になる、黄ばみについては着用部位によりその程度も異なり裾く胸く袖く背中く衿の順であることが判明した。また洗濯後の干し方により黄ばみの影響は異なり、夏制服(ブラウス)の条件として外観が重視される黄ばみを小さいものにするため洗濯後の日陰干しが、絶対条件であることが判った。